Za・あぐりふぉーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

2024.11.6
Vol.57

目次

生産現場情報：	共同購入トラクター：農家支援の新たな取り組み（前編）	Ｐ１～４
営農支援情報：	獣害対策に効果を発揮する電気柵について	Ｐ５～６
ご　紹　介：	令和６年産「秋田米新米キャンペーン」実施中！	Ｐ７
	秋田米各品種を販売しています！～ＪＡタウン「おらほの逸品館」	Ｐ８
お　知　ら　せ：	ザルビオフィールドマネージャー生産者向け説明会のご案内	Ｐ９

生産現場情報

共同購入トラクター：農家支援の新たな取り組み（前編）

ＪＡ全農は、農業機械の高騰が続く中、農業生産者の経済的負担を軽減しようとするＪＡグループの自己改革の一環として、政府の「農林水産業・地域の活力創造プラン」に対応し、全国の生産者の声を反映した厳選機能・低価格の共同購入※トラクターを提供しました。この取り組みは、アンケートにて生産者が必要とする機能を厳選して絞り、メーカーと協力してコストを削減し、効率的な農作業をサポートする目的で始まりました。第１弾として大型のトラクター（令和３年３月末供給終了）を３か年で2,２１４台、第２弾の中型トラクターを令和２年１２月の取り組み開始から１年半で約2,８００台を出荷し、生産者から高い評価を受けています。

※共同購入とはＪＡグループで生産者の需要をとりまとめ、ＪＡ全農が生産者の代理人として一括発注・仕入を行うことで、メーカーは製造・流通の効率化を図り、生産者へ価格メリットを還元する取り組みです。

１．第１弾共同購入大型トラクター　ヤンマーアグリ製（ＹＴ３５７Ｊ，ＺＵＱＨ：複数バリエーションあり）（～令和３年３月末供給終了）

ヤンマーアグリ株式会社と協力して生産された大型トラクター（ＹＴ３５７Ｊ，ＺＵＱＨ）は、生産者が実際に求める機能に焦点を当てました。アンケート調査に基づいて開発された機能には、６０馬力の出力、自動水平制御や自動耕深制御、倍速ターン、オートブレーキといった重要な機能が含まれています。特に無給油で１日作業ができる大型の燃料タンクや、快適なキャビンが標準装備されており、作業効率を向上させる工夫がされています。

また、価格の面でも、同クラスの標準トラクターと比較して約２５～３５％の価格低減が実現されており、多くの生産者にとって大きなメリットとなりました。この価格低減は、メーカーに対する一括発注と流通の効率化によって実現されました。

第１弾共同購入トラクターの取り組みは、令和３年３月末供給終了まで大きな成果を上げました。初回の目標であった３年間で全国1,０００台販売に対し、２倍近い累計2,２１４台の販売を達成しました。特に関東・東北・九州などの地域で人気があり、これによって低価格モデルの市場が拡大し、農業機械のコスト削減に貢献しています。

さらに、地域のＪＡでは積極的な提案活動が行われ、土地に根ざした農業支援が強化されています。次頁では秋田県内の推進実績・購入提案活動についてご紹介します。

◆秋田県での実績・購入提案活動について

平成３０年１０月２３日、ＪＡ全農あきたはトラクター『ＹＴ３５７ＪＺＵＱＨ』の秋田県内で一番目となる納品をＪＡ秋田ふるさと管内の「伊幸組」へ行いました。また、同年１０月３０日から秋田市で開催された「秋田県種苗交換会」にも本トラクターを展示し、生産者の方々へ低コスト農業を提案しました。

令和３年２月２２日には、県内２ＪＡ（ＪＡあきた白神・ＪＡ秋田やまもと）が同トラクター購入提案活動にてＪＡ全農より表彰されました。地区重点品目であるねぎ・大豆、または水稲面積拡大を目指す生産者向けのセカンドカー（２台目）としての提案を行い、作業機入替えの手間や労力を省くことにより省力化及び時間短縮に寄与した事と、ＪＡ青年部会員（若手農家）にターゲットを絞って本トラクターを提案した結果、シンプルな操作と性能および低価格が評判になり、口コミによりＪＡ管内の若手農家へ浸透させた事が評価されました。

種苗交換会での展示

２．第２弾共同購入中型トラクター　クボタ製（ＳＬ３３Ｌ：複数バリエーションあり）

高い評価を得た第１弾の大型トラクター共同購入からさらに幅広い農家層のニーズに応えるため、ＪＡ全農は共同購入企画第２弾として、主に１０ｈａから３０ｈａ規模の耕作面積の生産者を対象とした３３馬力クラスの中型トラクターを提供しました。

第２弾でも１万人を超える生産者にアンケートを実施し、意見を絞り込んで具体的な機能や条件を把握しました。さらに、３つの主要な生産者団体（日本農業法人協会、全国農協青年組織協議会、全国農業青年クラブ連絡協議会）との徹底的な意見交換が行われ、生産現場で真に必要とされる仕様がまとまりました。これに基づいて令和元年６月に国内農機メーカー４社に開発要求を行った後、生産者３団体の代表者とともに各メーカーの実機や試験データを確認し、汎用性や効率性を重視した設計の中型トラクターＳＬ３３Ｌ（製造元：株式会社クボタ）の提供が決定しました。

第２弾共同購入も第１弾に引き続き、ＪＡ全農が全国の需要をまとめ、組織力を活かした大量一括発注を行うことでスケールメリットを最大限に活用しました。一括発注によってメーカー側では効率的な製造や流通が可能となり、購入者である生産者の経済的負担が抑えられました。第１弾の大型トラクターに続き、第２弾の中型トラクターでも約２１～２６％の価格引き下げとなりました。

中型トラクターは、大型に比べて特にハウス内作業や露地野菜の生産現場での需要が高く、水田・園芸など幅広い作業に対応できるのが利点です。『ＳＬ３３Ｌ』においては１日の作業（約８時間）を無給油で行える４８リットルの燃料タンク、ハウス内の狭いスペースでもスムーズな操作を可能とするノークラッチ変速、農地の規模や形状にかかわらず効率的な作業ができるよう設計された倍速ターンや自動耕深制御機能が特徴です。また自動水平制御によって、傾斜地でも安定した作業を実現しました。

こうして第２弾の中型トラクターは多様な用途に対応できるため、特定地域に偏らない全国的な需要が見込まれました。初めは２,０００台の販売台数を計画していましたが、提供終了までに５,０００台を超える供給実績となる予定です。

◆第２弾トラクター、秋田県内での導入

秋田県では令和２年１０月２０日に、秋田県内ＪＡの農機担当者を対象に『ＳＬ３３Ｌ』の取扱い講習会が開催されました。講習会では（株）クボタの担当者を招いて概要の説明を行い、受講した生産者が試乗するなど推進活動を実施しました。

令和３年２月１６日には『ＳＬ３３Ｌ』の秋田県内でのご成約第１号の組合員への納品を記念して、ＪＡ秋田なまはげ雄和農機センターでセレモニーが行われました。

同年１２月７日にはＪＡ秋田共済連主催の農業実習用トラクター寄贈式において『ＳＬ３３Ｌ』が秋田県教育委員会を通して、農業分野の学科やコースがある秋田県内の３高校（能代科学技術高校・西目高校・大曲農業高校）へ各校１台ずつ農業実習用として寄贈されました。翌年春から田んぼの代かきや畑を耕す実習などで使用されています。

農業実習用に３台寄贈

３．共同購入における全農の取組み

共同購入は生産者の需要を取りまとめ一括発注を行うことで、メーカーが製造・流通を効率化でき、製造コストを削減できること、ＪＡグループが全国の生産者に結集を呼びかけ、積み上げた必要台数を背景に入札を実施することによって、生産者の購入価格の引き下げを実現しました。こうした取り組みを今後も展開し、全農は引き続き生産者の営農を支援していきます。

後編、【第３弾共同購入コンバイン提供】に続きます（次号以降の掲載予定）

第２弾共同購入コンバイン『ＳＬ３３Ｌ』系列の秋田県向け発注・取扱等につきましては、
ＪＡ全農あきた生産資材部農業機械課までお問い合わせください。

生産資材部 農業機械課　☎018-880-1622

営農支援情報

獣害対策に効果を発揮する電気柵について

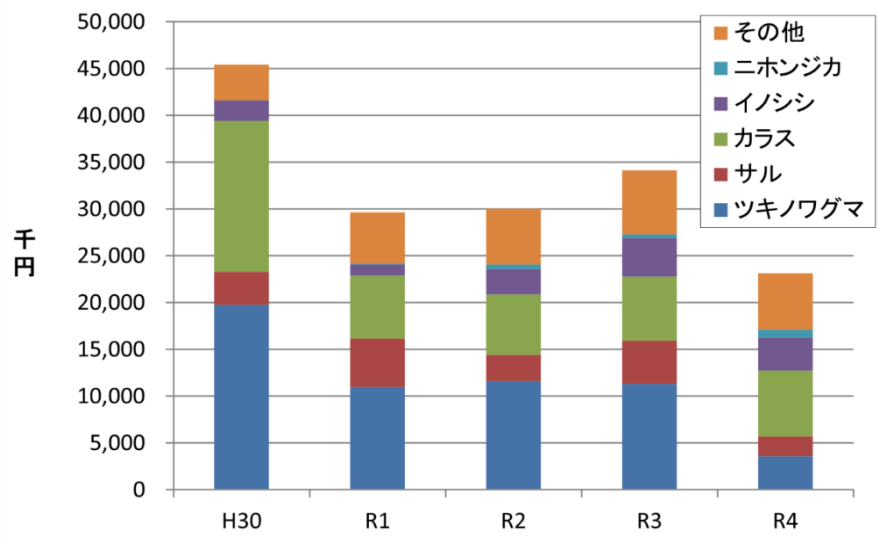
県内の野生鳥獣による農作物被害は、令和４年度で２３，１３４千円発生し、生産現場では見過ごすことのできない問題となっています。

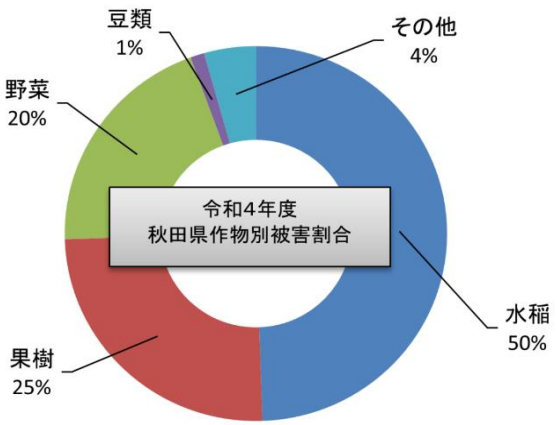
ここ数年の主要な加害獣種は、カラス、ツキノワグマ、イノシシによる被害で、全体の７割を占めています。作目別では、水稲の被害が全体の約５割を占め、次いで果樹、野菜、豆類の順となっています。

また、近年ではイノシシの被害が増加傾向にあり、その対策として電気柵が効果を発揮しています。

農作物被害額（秋田県）　（千円）

	H30	R1	R2	R3	R4	R4／R3
ツキノワグマ	19,747	10,985	11,588	11,348	3,566	31%
サル	3,527	5,179	2,854	4,609	2,151	47%
カラス	16,166	6,725	6,423	6,811	7,032	103%
イノシシ	2,177	1,175	2,719	4,106	3,506	85%
ニホンジカ	16	125	494	394	853	216%
その他	3,791	5,429	5,978	6,875	6,026	88%
合計	45,424	29,618	30,056	34,143	23,134	68%





出典：秋田県農林水産部 水田総合利用課

●（株）アポロ製の電気柵の特徴

ここでは、主要な取扱品目である（株）アポロ（http://www.apollo-area.jp）製の電気柵を例に特徴などについてご紹介いたします。

○安全で確かな効果を発揮

農作物を荒らす動物に電気ショックを与えて追い払います。一度電気柵に触れた動物は強いショックを受け、「電気柵は危険」と学習し、その後電気柵に近寄らなくなります。

人が電気柵に触れた場合、多少の刺激は感じますが、人体に害があるものではありません。

ただし、ペースメーカーや除細動器の装着者は電気柵に触れると機器の動作に影響を与える可能性があるため注意が必要です。

○豊富な電源種類

使用状況に合わせて４種類の電源が選べます。ソーラーパネル式は電気代や電池代がかからないので便利です。

①乾電池
②自動車用１２Ｖバッテリー
③ＡＣ１００Ｖ
④ソーラー式 ← お得

○設置は簡単

大きく分けて５つの基本的な作業で、設置はとても簡単です。

①ポール（支柱）にフック碍子などを取付ける → ②ポールを地面に打込む → ③ヨリ線（通電線）を通し、柵線を張っていく → ④電源システム本器を設置し、ヨリ線と接続する → ⑤通電を確認する

○日頃の管理

ヨリ線（柵線）と雑草が接触すると漏電したり電圧が低下して本来の効果が発揮できなくなるため、定期的な下草処理が必要です。草刈り機を使うとヨリ線を切ってしまう可能性が高いので、根を枯らさないタイプの除草剤の使用をおすすめします。

○部材等の選定

動物の種類、柵線の長さ（外周）、段数などに応じて、電源の種類、ポール（長さ、太さ、材質）やヨリ線（長さ、太さ）等の部材を選定できます。なお、動物の種類に応じた電源・距離別セット商品もあります。

※価格等については、お近くのＪＡまでお問合せください。また、商品の詳細・最新の情報等はホームページを確認お願いします。

園芸畜産部 農産資材課　☎018-864-2450

ご紹介

令和６年産「秋田米新米キャンペーン」実施中！

ＪＡグループ秋田・ＪＡ全農あきたは、令和６年産「秋田米新米キャンペーン」を実施しています！！

キャンペーンシールが貼付してある
対象商品を購入

応募期間

２０２４年９月２５日（水）～
１２月３０日（月）

対象商品

上記シールが貼られている**秋田米**

賞品

A　オリジナルロゴ入り
まげわっぱ２段弁当セット
４０名様

B　秋田牛＆桃豚
しゃぶしゃぶセット
４００名様

さらに…

Wチャンス！！

鼎庵　あきたこまち煎餅
１００名様

あきたこまち４０周年
オリジナル卓上カレンダー
５００名様

合計**１０４０**名様に当たる！！

秋田米各品種を販売しています！～ＪＡタウン「おらほの逸品館」

ＪＡタウン「おらほの逸品館」では、秋田米各品種を販売しています！是非、この機会にご賞味いただき、皆さんのお好みを見つけてみてくださいね♫

秋田の定番！

今年も登場！

無洗米が人気♪

「国産」を食べて応援キャンペーン実施中！

冷めてもおいしい✿

ご家庭にぜひ☆

様々なお料理に

しっかり大粒

ツヤが特徴✨

低アミロースで
もちもち食感！

詳細・ご購入はＪＡタウン「おらほの逸品館」で！

おいしい日本と暮らそう
JAタウン
おらほの逸品館

お知らせ

xarvio® FIELD MANAGER生産者向け説明会のご案内(ザルビオ フィールドマネージャー)

xarvio® Digital Farming Solutions

年額13,200円～
月々数千円から始めるスマート農業

ザルビオが助けてくれること

こんな方にオススメ	説明会で得られること
・稲、麦、大豆関係の生産者 ・収量、品質を上げたい ・規模拡大が進んでいる ・経験や勘を見える化したい ・新しい技術が好き	・ユーザーの生の声 ・収量アップの糸口 ・高温対策 ・営農指導の効率化 ・基本的な操作方法

カリキュラム	内容
ザルビオの概要紹介	ザルビオの開発経緯、機能の概要
ザルビオユーザーの生の声	ユーザー生産者が講師となって話します
課題解決に向けたザルビオの操作方法	操作画面のデモ 操作マニュアル配布
ザルビオのAIチャット機能紹介	ザルビオチャットのデモ
登録方法の紹介、サポート	WebShopの使い方説明

開催風景

- 実施期間：2024年12月末まで
- 説明会の所要時間：約2時間
- 講師：ザルビオユーザー（生産者）
  BASFジャパン担当者
- 最小開催人数：10名以上

- 説明会開催までの流れ
  ① JA担当者より下記窓口に問い合わせ
  ② 担当者同士で日程、場所、講師を調整
  ③ カリキュラムは柔軟に変更可能
  ④ JAから管内生産者にご案内

説明会開催にあたっての問い合わせ先：
全農　耕種総合対策部スマート農業推進課　TEL:03-6271-8274　e-mail: zz_zk_smart@zennoh.or.jp
BASFジャパン　ザルビオ担当　池町　TEL:080-4405-5886　e-mail: kenta.ikemachi@basf.com

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
ＪＡ全農あきた営農情報誌 Ｚａ・あぐりふぉーむ
第57号　令和6年11月6日発行
編集・発行 ＪＡ全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011